

齋藤茂吉全集

第二十八卷

齊藤茂吉全集

第二十八卷

第二十四回配本（全三十六卷）

齋藤茂吉全集 第二十八卷

定價 二千二百圓

昭和四十九年十二月十三日 發行

著 者 齋 藤 茂 吉

發行者 岩 波 雄 二 郎

發行所 東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式會社 岩 波 書 店

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

手
記
二

目次

手帳四十三	一
手帳四十四	二六
手帳四十五	七一
手帳四十六	一六四
手帳四十七	一七〇
手帳四十八	一九七
手帳四十九	二二一
手帳五十	二九一
手帳五十一	三〇六
手帳五十二	三六一
手帳五十三	四一三
手帳五十四	四六一

手帳五十五	四七二
手帳五十六	五六九
手帳五十七	五八五
手帳五十八	五九〇
手帳五十九	六〇三
手帳六十	六二四
手帳六十一	六二八
手帳六十二	六四三
手帳六十三	六七七
手帳六十四	六八一
手帳六十五	六八三
手記雜一	八〇九
手記雜二	八五三

後記	八八七
----	-----

手帳四十三

○ゆふすげ(アマナンバナ) 黄花忘れぐさ 是ますけ^{〔原〕}／○砂糖づけ(麥門冬)／○幹事 干^{トリアツカフ}へー幹

釣 釣 釣

幸田先生書

節(節^{カク})／甘藷 簾(王羲之)

樺^{セン} 國名(カン) 緬甸^{ミヤンマー}／今のビルマ^{〔原〕}たがナゼコノ字ヲ書クカ ビルマノ北方ノ一部ニシテ Chen

ノ北陸道ノ道ぐらゐノ處 想像ナリ／一部ヲ以テ全體ヲ云フコトア^{〔不明〕}

末呂(慮^ラ)／波斯^{ペーシヤ}

怒江後ニハ路江(Salween)／布^{〔富〕}「フルマイトレア」 「フルナ」 フルナノ辨

韓退^{ルキヤン}之^ハ韓退^{トスル}／ゾロツ^ハ

○三甫問答 連歌、紹巴ヲ攻撃セルモノ／○乗^ぬる

天地にぬきとほるまで戦ひ果てよ／なまぬるきをないひそ／空しからしむな／親戚の少尉戦ふころ雪ふるらむか

青森縣西郡柏村大字桑野木田大澤初枝

○類聚歌林

胸さわぎしてねむられなくに

日12 日21
月13 月22
火14 火23日
(十二月) (十一月)

十二日、午前診察、表具師、系圖賣 午后英譯萬葉、岩波 夜、廣野氏
十三日 午前、如水會館、午后本院、相模屋主人來。橋善てんぷら 夜、築地小劇場「土」總見
十四日、午前、人丸歌評釋(專賣) 午后午睡。夜、醫局歡迎會。

文部省社會教育官、松本良彦氏
○加奈之加留比等都宇都志繪小夜止古伊多岐而奴禮者ア多、麻利多留

無計武手武陀岐而

宇都々爾者安布古等毛奈之等古等波爾、比著都之伊氣江伊氣都氣之子也
たまきはるいのちけぬがに古保志計止宇都々爾兒呂者隔利爾計利

ウツツニトホシ
ハルカニナリヌ イメニダニコヨ／トコトハニウツツニハ

魚籃坂ノ上、藥王寺、／麻布一本松。ケンソウウ賢崇寺（鍋島夫人）

ソーヂ器械。吉田妻君／ハイバラ色紙

彈丸を背負ひて走る老兵はいひがたきびしき顔したるかも

車房

戦にいでゆく馬を村こぞり白飯たきて

上村孫作、三島ふさ／五百名／○王子區上十條一〇三三、甲田方三島ふさ子
十二時四十分、四、二五、八・十五

○28日本曜、日本劇場地下ニウス劇場、／十時五十分歌舞伎座、／ドイツベルリン七〇〇年祭、
／土囊ハコブ 風船ノ下ヲ通ル、ドロ道、トツゲキ（竹林）／毒マスク

○われ五十六歳まで生きしかば

静夜集、青丘雜記

パレーデダンス Palais de Dance／伊藤 Libelle

ホテルマルマニア／レールターバンホーフ

彫刻。特選「弓」ワルイ型、(若い男)モ然リ、／働きの後(吉開伊喜藏)ヤ、可／試作(堀江
越)ヤ、可、

○十月廿六日―午后四時半大場鎮遂に陥落す。

○高橋ふみ子(西田博士姪)

○二十九日 文章増補 前田茂三郎氏、宇野浩二夫人、

○三十日 土、午前中、「宣傳ノ切抜」。午后、色紙書ク。午睡、山形ノ岡本、河野、夫婦、佐藤氏、澁谷ノ双葉。山口、佐藤、憲吉全集出來。

○十月三十一日 午前、松屋、文房堂、古本屋、靖國神社 日比谷公園、銀座三越、宇都野君ニアフ。午食ハ「コムビサラダ。コ、ア

○街路樹の牛。焼印うる老人

○京橋ノ□□^{不明}一時二十分／淺草二時四十分

葛卷瑠璃子(廿二才)

新晴好天氣、誰伴老人遊(白樂天)

秋晴の花野に遊ぶ老人は伴ふ人もなくて暮れぬる。

○大久保中佐／○梅崎中佐（帝國海軍と支那事變）／渡洋空襲部隊三千四十キロ位^{不明}／日本ギ
セイ四九臺、一三千噸ヲ下シタ／支那三八〇臺／∞月二十三日下駄バキ／南野^{中尉}大尉

○三日雨、午前、夜話、午后本院往診、神宮。青山會館

○四日。ニュース映畫（丸の内松竹國際ニュース劇場）／○工兵ークリユーク、ハシゴヲカヅイ
テキル、歩兵一人オチル。／○突撃ガハヤイ。○火災。炎。○書館鐵路局等、

Veriter 黒

○三菱選者吟

おきいでゝすがしき朝につゆじものいまだ降らねば黄なるたま菊

さむざむと朝晴^{アシタ}れぬと見えながら閨北にかけし空くらみたる

○上野より淺草寺を見／わが四十代のはじめのころより

○目のまへに肉薄戦の一部のみ忽ちすぎて我は出で來し

○綿のはたけを制ふ／○ハリユードの美女と泥す／○「涙の彼岸」

◎川合俊良^明師へ佐藤君ノ Heiraten ノ世話人（山形縣東置賜郡沖郷村、寶高院）
教學刷新ノ一項ニ「外國語亂用のフ薄なる傾向」云々といふ句あり、

十一日午前六時十五分上野發藤森君同道

○水戸彰考館 アマガヒ 雨谷先生／○水戸市外縁岡、(徳川別邸内) 雨谷毅先生／○水戸市細谷町彰考館
福田耕二郎氏／千幡沼 センバヌマ

十一日彰考館、雨谷翁 大人 —昭和十二年十一月十一日

よろづ巻のふみを守らし尊くもいや年々にさきはひいませ

彰考館ノ御事

わがこふる書をとめ來て園の上のもみぢさやけき今日にあへりける
好文亭、吐玉泉 飛玉泉

○十二日午前八時三十分バス 晴、金曜

二人、十一圓、／牛久沼カモ澤山一列、／午后○時三十五分上野著。藤森君ヲ日本大學ニオクリ、
家ダニヲ退治シ、午睡。來書。土屋山口ニヨリ、日比谷、鰻。映畫
十三日、映畫、淺草、カヘル、夜、

四行信託上海分倉庫／キ兵。ウマユ送、鐵橋 ハダカノ馬、馬水中ワタル。大砲ヲ橋ヲ引ク。／
○キ兵集團。／○杭州上陸 アラシシブキ／アサセヲコグ／蘇州河上陸、舟ヲカヅク
○上海の大激戰に参加せる平野少尉は華と散りけり。(選歌なり)

十四日、廣野君。戰車。午睡。日比谷映畫。三島。築地劇場。

十一月二七、二八、二九、新宿第一劇場、ゴリキー

ウメエガ？／ウマガデシシヨアンメイ／ワレトデヤガクベエナ／考ヘタツテシヨウアンマイナ十五日、大西電話、夜話整理、新萬葉、手紙、アララギ哥ナラズ。

18日（木）

○漢陽樓十七日／○注音漢字―回音統一 ○漢字咒咀、辛辣ナル漢字打倒ノスローガン

きづまるこのはげしきも片鱗 ein Eckchen か／ひろ葉木のもとに
橋本博士。

食はせ せ す する すれ

はさむ し す せ

しぬ―ハ誤也
せぬ

○讃岐に瀧の宮神社あり。瀧の宮八幡宮あり、分社ニ久世神社アリコレハモトハ孔^ク聖^セデ「祭神孔子」トアル 神社ニナツテキル。

○「トヨクニ」ダケガ「ノ」ガナイ。他ノ國

○「大ワタヨドムトモ」水ノ流ヲオサヘテ待ツテキル、トウリユーシテ待ツテ」／湖水ハナガレナイカラ、淀ムトモデアル。／假言デモ事實ヲ假定ニトル ソコニ自分ノ心ヲ打コム／Stand still

○玉裳ハ吉澤説ハ玉藻ト云フ藻ガアルカラ、ソレカラノ縁語ガアル。ソレナラムカ。

○言アゲ、揚言。ニアフ、オホギヤウニ、高ラカニ。

○白香つけ（四二六五）、横綱ノシメノ如キモノ。

○一四五四―兒島ノシラベ。「波のあはひより見ゆる小島」難波より見放る海中の島をひろく云るにもあるべ、^{（願）}（古義）兒島は備前の兒島なり（代匠記）「日本道乃吉備乃兒島乎過而行者」^{（ヤマトデノノキビノコジマヲスベテユカバ）}（卷六）

○吉澤博士、「ケノコノゴロ、」ハ今日カラ過去ノ用法ガ多イ「アラム」モ自分ノコトトシテハ合ガワルイ。

○猪狩幸之介、漢文典（金港堂）

みだりに（四段）／＼しきりに（四段）／＼さかりに（四段）

○義太夫「櫻しぐれ」

○新内「酔月情話」（花井お梅）

柔鱗輕鷗外、へ―「かろく水にういてゐるかもめのそばに」、含悽覺ニ汝賢ニ

「わたしはこのまゝ泛べる鷗をとほりぬけて柔かに櫓の音をさせて夔州へいつてしまふ。別るるにあたつてものがなしさが胸にこもり、ただただ日ごろのあなたの賢かりしことがしみじみと感ぜられるのである」（鈴木虎雄先生譯）

○五目甘味^{ゴモクウマミ}

○一ツノ山ガアツテ、ソノ一部ヲ大キナ力デ押ヘコマセタヤウナ



コ、ガ^たを（新撰字鏡）

〔原〕

「山ノヤワ」ト云フ名詞アリ（山田氏）タワ越ト云フ字モアリ、柳田國男氏ナドハタウゲモソコカラ來タトサヘ云ツテキル。たわんでゐる、モ同言源？

○十二月七日（日曜）迄、佐々木博士迄。

山東軒（神田神保、猿樂町アタリ）○萬葉會、（如水館）^{（會）} ニュース映畫。更科、富士アイス コロンバン。

廿六日 驪山莊、

三點三一六〇首 二點一萬三千首（大體コレ）／表裝、大觀、比田井天來

○道路工事の砂／煙突よりけむりは／くり石を山ほどつみて／○山嶽戰、ナダレト共ニオチテ來ル。／中尉ハ落付イテキル。デイマイノ妻、／○大地。十時ニナリ、白十字クリームソーダ。

○彰徳 西南方十五キロデ敵三千ヲ撃破 工藤部隊（大佐、豫備）

スゲギバウシノシモガレ。／シロガネススキ。のほは直立てり／アネモネ（一ツ咲ク、冬）／かしはの太樹いまし落葉す。／サンシユノ紅實シブク酸シ

水わたうく、／るりいろの玉を求むと

白鯉／つゆじもに白くなりつつかれふせる

○見習士官としての威容が備はりて長劍佩きし君をしぞ見つ（藤原哲夫君）

○松井一郎 ○戦線にすでに明日^{あす}かもたちゆかばただに生還期すべからじか、

◎樂雲紙（一枚五十錢）

〔四日〕 日比谷ニュース映畫。伊東屋

雨中、蘇州入城／ショーカー石／小學生、／眞美、喜興、（炎、）砲兵、ハコ負フ／キカン銃負フ。
／ケムリ。ミエル 草ノ中ノ兵／牛ヲ使フ、／ホリヨ。／無錫戰／上海ノ洪水

五日

○松坂や、ミノワ ドーミエシラベレ

六日、ドーミエ。香雲莊。東横、チャシユ麵（二十錢） 上野、一水會展覽會。

河鍋曉齋、鬼碁打圖 一ツハ（煙管クハヒ） テキル／鉄形蕙齋、近世職人盡畫卷 ○江戸前、蒲

燒、^{江戸}まへかはやき／海北友松の^{寶國}商山四皓圖屏風 一双ノ内／○デューレルノミュンヘンノモノ。

／○保元平治合戦繪卷二卷、模本、／○繪傳（御物聖德太子繪傳）

○七日

鳥ノ五目ウマニ カニノ巻アゲ

○七日、太木よりくれなゐの實が もろたり、むらがりたりし ふさなりにたる
濱町、濱のや（ジングスカン料理）／本院、／◎吐き出す（ほき出す）といふ。

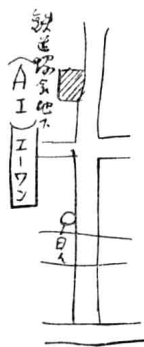
Itsutatsuka 11ji tate Kioto ka Osaka eki nite matsu
Makino. / 午後一時二十四分 / 9 hi yoru 11ji tate Makino. /

Mitwoch

上智大學、景山哲夫氏、御友人 久木田氏

○厚賚。

○山田珠樹「戦地では死を賭して働いてゐるのである。一つの仕事をするためにはこの命を捨てゝもよいと思つてゐるのである。この仕事は時に數メートル敵に近づくことに過ぎないかも知れない。そんなことにでも命をかけて、豫備を残さずに全勢力を傾け盡してゐるのである、死になつて働くといふことは容易ならぬことである」



疣眉—白髪 [ミヅハ] グム、ミヅハオヒ / 婆羅門、 / ○カニモカクニモードウニデモカウニデモ

ドウシテモカウシテモ) 山田

○あはれなる結論ひとつ遠き世のクレオパトラモかく香ひけめ

○小草の實むずびも adalterà multiplex

○アキツ神、(肉體ニヤドシタ神—山田博士 (a god in mortal flesh)

置蚊火之下粉枯耳余戀居久 (卷十一 二七ウ)

大船乃由久良由久良爾思多吳非爾伊都可開許武等 (卷十七、23オ)

可由吉加久遊岐見都禮騰母 (17、36オ)